

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

特集

ブラインドサッカー[®]は
コミュニケーションの学びの宝庫！

VILLAGE GREEN

2023.3

52

男女共同参画社会をめざす

特集 | ブラインドサッカー®は コミュニケーションの学びの宝庫!



世界的に流行した新型コロナウイルス感染症が私たちの生活をガラリと変えてから約3年が経ちます。とくに初期においてはステイホームが求められ、家族と過ごす時間が大幅に増えるなかで、それまでうまくいっていたことが急に回らなくなったり、経験したことのないトラブルが起きたりと、コミュニケーションの難しさを再確認した方も多かったのではないのでしょうか。

家族に限らず、パートナーや親しい友人など、距離が近いからこそコミュニケーションが雑になってしまいうことは往々にしてあります。

すこしずつ感染拡大前の生活に戻りつつあるいま、コミュニケーションが欠かせないスポーツ、『ブラインドサッカー』を通していまいちどコミュニケーションについて考えてみませんか？



提供：日本ブラインドサッカー協会

そもそも ブラインドサッカーってなに？

ゴールキーパー以外がアイマスクを着用してプレーする5人制のサッカーです。パラスポーツ(注1)の一種で、パラリンピックの競技にもなっています。

選手たちは転がるとシヤカシヤカと音が鳴る特殊なボールを蹴って、ゴール裏にいるガイドと呼ばれる味方の指示を頼りに得点を目指します。国際大会のルールでは、フィールドプレーヤーとして参加できるのは全盲の人(注2)のみで、ゴールキーパーは弱視者か晴眼者(見える人)が務めることになっています。

(注1) 広く障がい者スポーツを表す言葉。
(注2) 視力が0.05以下(0.025)より低い状態。視覚障がい者のスポーツでは、障がいの程度によって分けられた3つのクラスがあり、そのうち最も見えにくいB1クラスがこれに該当する。

どうして ブラインドサッカーなの？

今回のテーマはコミュニケーションについて。なのになぜ、ブラインドサッカーなのか？ そう思った方もいるのではないのでしょうか。

目隠しをした状態で行うブラインドサッカーは、選手同士では「いま自分がどの位置にいるか」、選手とキーパー・ガイドの間では「ゴールまでどれくらいの距離があるか」といった情報を、言葉で伝え合うことが重要になってきます。スピード感が大事な試合中は簡潔さが求められる一方で、きちんとした連携のためには正確さも必要になってきます。そのため、ブラインドサッカーは上手なコミュニケーションが必須の競技であるといえるでしょう。

このような背景から、日本ブラインドサッカー協会は、競技を通して新たな視点でコミュニケーションについて考える機会を提供するさまざまなプログラム(上記QRコード参照)を実施しています。

ブラインドサッカーとは

日本ブラインドサッカー協会 公式HP
https://www.b-soccer.jp/blind_soccer

そのほか、ブラインドサッカーの詳しい情報はこちらのQRコードから！



腰上の高さのサイドフェンスが設置されたコート

小平市とブラインドサッカーの意外なカンケイ

日本初のブラインドサッカー専用コートが小平市にあることを知っていましたか？「MARUIブラサカ！パーク」は令和2（2020）年にオープンした2面のブラインドサッカー専用コートで、小平市花小金井のマルイ研修センター内にあります。

それまで選手たちは、通常のフットサルコートを使用して練習をしていましたが、ブラインドサッカーのコートに必要な不可欠なサイドフェンス（写真参照）を設置するのに、かなりの時間と労力がかかっていました。常設のコートではそれらを行う必要がないため、選手やスタッフの負担がかなり軽減されたそうです。そんな「MARUIブラサカ！パーク」で行われた女子日本代表強化指定選手たちの練習に、よりよいコミュニケーションのヒント探しも兼ねて行ってみました。

見学に行ってきました！

大通りから一本入ったところにあるコートは、住宅街からもすこし離れているためとても静かで、集中して練習ができそうな環境という印象を受けました。

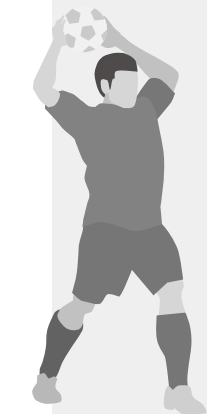
ストレッチやダッシュなどのウォーミングアップから始まり、パス練習、パスからのシュート練習と、ひとつひとつのメニューをスティックにこなしていく選手たち。「見える人が守っているゴールに、見えない人がシュートを決めるなんてほんとにできるの？」と思っていましたが、実際にゴールキーパーがいる状態でゴールポストの隅を狙ったシュートが綺麗に決まるのを見ると、簡単ではないもののまったく不可能なことでもないんだということがよくわかりました。

いちばん印象的だったのは、コーチから選手に、あるいは選手同士で「声を出す」「自分がどこにいて、これからどこに行くかを伝える」ことを徹底するよう頻りに声かけを行っていたことです。これだけ声をかけあうことが重要な競技で、そしてそのことを誰よりもよく理解している選手でも、競技に集中していると声を出すことを忘れてしまうこともあるのだな、と思いました。

日常生活においても、「これくらいわかるだろう」と思って言葉や説明を省いてしまう場面が多々あります。情報をこまめに伝え合い、それを意識し続けることの大切さを感じました。



女子日本代表強化指定選手の練習風景



それでは、実際に現場にいる方はどのようなことを考えてコミュニケーションをとっているのでしょうか。日本ブラインドサッカー協会ではハイパフォーマンス・ディレクターとして、男子日本代表チーム、女子日本代表チーム、育成部を統括されている魚住稿さんにオンラインでお話をうかがいました。

日本ブラインドサッカー協会
ハイパフォーマンス・ディレクター 兼 育成部長
魚住 稿（うおずみ こう）さん

元ブラインドサッカー男子日本代表チーム監督。2005年、八王子盲学校の体育教員時代にブラインドサッカーに出会う。2008年から代表チームの強化部スタッフ、監督、育成部部长経験を経て、2022年4月に協会のハイパフォーマンス・ディレクターに就任。



提供：日本ブラインドサッカー協会



練習の見学に行った際、ガイドがゴールまでの距離や方向を具体的な数字で選手に伝えている光景を目にしました。

客観的な指標で情報を伝えることは、ミスコミュニケーションを防ぐ効果がありそうですが、例えば、長さなどは共通の認識のようでいて実はその感覚は人によってずこしずつ異なっているようにも思います。

事前に感覚のすり合わせを行うのか、ひとりひとりの感覚をこちらが理解しておくのか、どのように対処しているのでしょうか。



感覚の違いを解決することが、ミスコミュニケーションを減らすということです。

選手たちに“1.5 m”という距離間が大事だと教えています。ディフェンスでは、相手が選手と選手の間をすり抜けていってしまうことがある。2人の選手がそれぞれ真横に腕を伸ばしたときに指先が触れ合うくらいの距離にいれば、突破しようとする相手の存在に気づくことができる。水平にあげたときの腕の長さはだいたい80cm、それが2本でだいたい1.5 mになるので1.5 mの距離間隔が大事なのです。数字自体は1.4でも1.6でもかまわない。

大切なのは、目的がなにかをはっきりさせることです。なんのためにその距離を伝えるのかを考えたら、距離が正確かどうかはそこまで重要ではないですね。



なにを伝えるかについて考えるとき、
なんのために伝えるかについても考えてみる



選手たちを指導するうえで意識していることについて教えてください。



私たちは、情報の約80%を視覚から得ているといわれています。選手たちは視覚以外から得られる情報を頼りにプレーをしますが、それだけではどうしても情報が不十分になるため、足りない情報を補完するということを強く意識して指導をしています。

指導のときに気をつけていることは、情報を与えすぎないようにすることです。全ての情報を補完しようとする、なにをいちばん伝えたいかがわからなくなってしまうからです。伝える情報とそうでない情報のバランスに気を配っています。



いちばん伝えたいことはなにか？
について考える





Q

自宅でできるブラインド体験があれば教えてください。

A

手軽にできる方法としては、アイマスクをつけてご飯を食べるというものがあります。その際、調理されている段階からアイマスクをつけておくことが大事です。味や食感だけでは意外とどんな料理かわからず、食べるという行為ひとつとっても、味覚だけで行っているわけではないんだということがよくわかります。

食事の前に写真を撮っておくと、アイマスクを外したときに想像していたものと実際の様子とが結構違っている、という体験もできます。

目で見て楽しんでいる面もあるのだなとわかると、味覚の感じ方が変わってきたり、食べ方にもっと意識が向くようになったりします。

Q

ブラインドサッカーを知らない人に、これだけは伝えたい！これが魅力です！ということをお教えください。

A

これだけはと言われると難しいですが(笑)「価値観が変わります」ということがいちばん伝えたいことですかね。

視覚障がい者と聞くと社会的には弱者であるというイメージがある方も多いと思いますが、一度プレーを見ると我々には到底できないことをやっていることがわかり、そこで価値観がガラリと変わります。

見えることが当たり前という社会になっていますが、それはただ見える人の数が多いからであって、少ない人が生活しにくいままの社会でいいのかということを考えるきっかけにもなります。

ブラインドサッカーは、価値観を変えるきっかけになるツールのひとつであり、それはいろいろなところにあると思えば、価値観の変革はいろいろなところで起きてくるのではないかと思います。

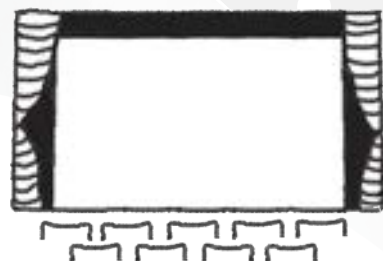


小平市で行われたブラインドサッカー体験会に参加したのは、令和4(2022)年の3月のことでした。目隠しをした相手に、ボールを手で転がしてパスをする練習の途中、インストラクターが何気なく口にした「ボールを転がす人はこれから転がすということを伝え、受ける側は準備ができていることを伝える。」という言葉に衝撃をうけました。転がす意思と受け取る意思があることがお互いにかかって、初めてボールを転がすことができる。コミュニケーションの本質を改めて理解した瞬間でした。

この体験を契機に、コミュニケーションについて考え直したいという思いから今回の特集を企画しました。読者の皆様にも何か気づきや発見があればとても嬉しく思います。



本・映画・ドラマの中の 男女共同参画



『男子が10代のうちに
考えておきたいこと』(岩波ジュニア新書)

田中俊之 著

10代男子のボクは、幼稚園までは「男子だから」を感じなかった。小学校では強い女子に圧倒され、「男は泣かない!」と先生にも言われて嫌だった。中学・高校と部活はしないが友達はあるし、勉強も家事もしている。両親はワーク・ライフ・バランスに忙しい。伯父は三日三晩、寝ないで働いたことを自慢するが、理解不能。叔母は昇進で悩み、家事分担で嘆く。

ボクはこの本を読んで、「男の生きにくさ」や社会のことを知り、コミュニケーションをよくして、より多くの人たちが大切にされる道を考えていきたい。10代なんだから、間に合うと思う。

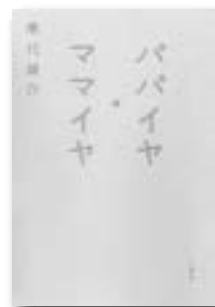


岩波書店 800円+税



『パパイヤ・ママイヤ』

乗代雄介 著



「パパ、イヤ」と「ママ、イヤ」な2人の少女は、何のしがらみもなく共通点を持った人が集まるSNSだからこそ、純粹に心を通わせられたのではないかと感じます。

ホームレスのおじいさんをはじめとしたさまざまな人との出会い、そして彼らと繰り広げられた出来事が、互いの生活に向き合うきっかけになります。おのの自分なりの答えにたどり着く変化の過程は、人間関係でいろいろ悩みを抱える幅広い人に響くのではないのでしょうか。

文中に登場する椎名林檎さんの楽曲は、2人を勇気づけるテーマソングとなっています。特にラストシーンではぜひ「人生は夢だらけ」を聴きながら読んでほしいです。

小学館 1600円+税

『存在のない子供たち』

(監督) ナディーン・ラバキ



レバノンで生まれたゼインには誕生日がない。両親が出生届を出さなかったために自分の年も定かではない。小さなアパートで雑魚寝する幼い妹たちも当然そんなものはない。子どもへの愛も責任もない両親の元で、それでもゼインと小さな妹たちは生きていく。ゼインはただ親の言う通り小さなコンビニの力仕事で一日を終える。もちろん学校なんか行っていない。

彼が今心配しているのは仲のいい妹、サハルのこと。隣で寝ているサハルの寢床に血の染みがついていたのをゼインが見つけたのだ。そのことがサハルにとって何を意味するのかゼインは知っている。サハルに目をつけていたコンビニの主人が、彼女を妻にしようとして両親の元にやってくるのだ。ゼインは妹の下着を水で洗い隠そうとするが、目ざとい母親に見つけられ、サハルは男の妻にさせられてしまう。小さな体で妹を守ろうとしたゼインは怒りのあまり部屋を飛び出した。その後、再び戻ったゼインは、サハルが身分証明書がないばかりに若すぎる妊娠で命を落としたことを知る。ゼインは男を刺し捕まってしまう。

収監された少年刑務所から、テレビ局にかけた電話でゼインは、「面倒も見られないのに自分を生んだ両親を告訴したい」と訴えた。それは生き延びるために次々子どもを生む大人たちへの、究極の抗議だった。

(Netflix)

*令和5年3月現在の情報です。



地域交流コミュニティテラス **VILLAGE GREEN** ビレッジグリーン

ビレッジグリーンはグリーンロード（小平市を1周する緑豊かな遊歩道）沿いにあり、小平ふるさと村の斜向かいにあります。お店のスタッフは皆、障がい者通所施設リズム工房の「キラキラ人形劇団」に所属する若者たちです。人形劇の公演は幼稚園等に招かれ行うことが多いのですが、お店の中でも舞台設営できるようになっており、地域の一芸さんたちとのコラボ公演をすることもあります。

そのような活動をしている彼らだからこそ、丁寧で一生懸命な接客に心がほっこりしてきます。注文の取り方にもひと工夫があり、お客さんとスタッフたちの楽しいコミュニケーションが自然に生まれます。昨今の“何事も迅速かつ効率重視”の流れとは全く違った“贅沢で優雅ないこの時間”が過ごせるステキなカフェです。

リズム工房所長の宮山さんは、「地域の方との交流を図ることを主たる目的としていて、こんな若者たちがいてくれて嬉しい、こんな場所があって良かったと思われる居心地のいい場を作っていきたい。」と語っていました。

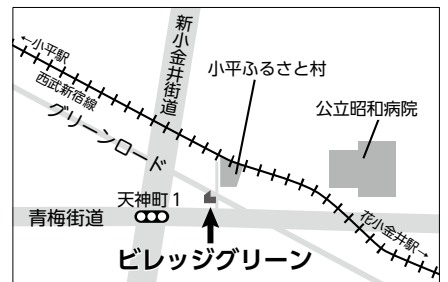
おまけですが、お店からの眺めも最高ですし、飲み物もとっても美味しいですよ。口直しのハーブティのサービスもなかなかです。ぜひ、皆さまお立ち寄りくださいませ。

地域交流コミュニティテラス **VILLAGE GREEN** ビレッジグリーン

営業時間：10：30～15：30 定休日：土日祝日、雨の日

所在地：小平市天神町3-7-1 TEL：042-318-5297

小平ふるさと村で催物がある場合など、土日に関することもあります。



皆さんの声をお寄せください。

『ひらく』を読んだ感想やご意見など、以下のメールアドレスやホームページからお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。

●市民協働・男女参画推進課へメール
kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp

●小平市ホームページ
→『ひらく』のページ
→メールでのお問合せ



撮影：長塚秀人

表紙の写真がビレッジグリーンです。

ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館（11館）、図書館（11か所）、地域センター（19館）、大学（6か所）、福祉会館、市民総合体育館、児童館（3館）、市内保育園、幼稚園、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局（17か所）、市内各駅（7か所）、ふれあい下水道館

小川町	手作りクッキーの店 歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院、和食処 楠
小川西町	佐野商店、たましん小平支店、NMC ギャラリー、小川ホーム
小川東町	ギャラリー青らんぎ
上水本町	アトリエ・パンセ
学園西町	ビューティーサロン サンローズ、梁里館、美容室ヘアアグラッシュ、本間歯科、ヘアサロン サンライズ、笹間住宅資材、学園接骨院、国際交流協会、しらす鍼灸治療院
学園東町	日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je、とりあん、お化粧のしのぎき、Kimamaya T&K、宮鍋園本店、レンタル BOX 学園坂
仲木町	小平消防署
鈴木町	egg Cafe
天神町	ビレッジグリーン
美園町	多摩済生病院、カフェラグラス、珈琲の香、POEM、永田珈琲、ルネこだいら、子育てサポートきらら、アンデスの家ポリビア
大沼町	ガスマジューリアム
花小金井	公立昭和病院、Cafe & Deli hug、Tacos Mercado、上原薬局 2丁目店

広報誌「ひらく」のバックナンバーはこちら→



編集後記

● 大学卒業前、最後の『ひらく』になりました。2年間『ひらく』の編集に携わって自分の意見が形になる経験をさせていただき、とても自信に繋がりました。また、一緒に活動させていただいた実行委員の方やお世話になった市役所の方から感謝申し上げます。ありがとうございました。(S.T.)

● 特集を担当しました。もやもやとしたまま投げた企画案が、たくさんの方の協力のおかげできちんとした形になりました。取材に真摯に対応してくださった日本ブライズンデザイナー協会の皆様、素敵なデザインを提案してくださった制作会社の皆様、サポートしてくださった市民協働・男女参画推進課の皆様へ感謝申し上げます。謝辞というものは本当に素直な気持ちで出てくるものなんです。(並木)



玉川上水緑道を拠点に 自然・人・アートを結ぶ

さきやみお
崎谷 未央さん

崎谷未央さんは、編集制作アイモという屋号でガイドブック・雑誌の企画編集や社長インタビューなどの仕事をしながら、まちづくりの活動をしています。令和4（2022）年11月には玉川上水沿いのキャンプ場に1泊してアート体験をする“ART CAMP VILLAGE in KODAIRA”を企画・運営し、同時開催したマルシェには1200人以上が来場しました。今では地域のさまざまな人とつながり、活動をしている崎谷さんですが、6年前までは人脈も知識もなかったといいます。



ART CAMP VILLAGE in KODAIRAで
演奏するロバの音楽座

崎谷さんは出版社等に勤務した後、平成25（2013）年、女性3人で起業して広告・制作会社をつくりました。しかし、子育てをしていたのは崎谷さんだけ。業務量が増えるにつれ気持ちも体力もついていけなくなり、わずか3年で退社することになります。「仕事が好きだったので、会社を辞めてからは自分には何も残っていない気分でした。当時はやりたいことが分からなくて辛かった。」

そんなとき、市報で小平市に観光協会ができ、市民向け講演会が開催されることを知ります。これだ！と思い、さっそく講演会に出席。いくつかの幸運に恵まれて、平成28（2016）年からこだいら観光まちづくり協会で働き始めます。それ以降は観光でまちを活性化させるという発想に夢中になり、協会を辞めたあともさまざまな形でまちづくりに関わっています。

崎谷さんが特に魅力に感じているのが玉川上水緑道です。令和2（2020）年に水と緑の道アートウォークプロジェクトを立ち上げ、玉川上水緑道を拠点に自然・人・アートを結ぶ活動を始めます。それを体現したのが“ART CAMP VILLAGE in KODAIRA”です。玉川上水を借景に、全国で活躍するロバの音楽座や地域クリエイターと一緒に素敵な舞台とイベントを作り上げました。

「玉川上水は水と緑の道。それがアートを育む場となっています。そんな素敵な道を通して人と文化、自然をつないでいきたい。」と崎谷さんは話します。

第26回 ^{ひと} ^{ひと} 女と男のフォーラム

男性学から『らしくあれ』にモノ申す

令和5（2023）年2月12日（日）小平市中央公民館ホール

講師 ^た ^{なか} ^{とし} ^{ゆき} 田中 俊之さん 大妻女子大学人間関係学部准教授



『男子が10代のうちに考えておきたいこと』（岩波書店）、『男が働かない、いいじゃないか！』（講談社）などの著者であり、男性学を研究している田中俊之さんは、仕事も家事も子育てもしています。

昔から「男は仕事、女は家庭」と言われてきましたが、今はそれでは成り立たない社会。アンコンシャス・バイアスによる思い込みを取り払って、「男も女も、仕事も家庭も」へと変わっていき、だれにとってもよい生き方ができるように、働き方、男女の賃金格差、子育て、地域とのかかわり方など、実例をあげて分かりやすく講演されました。

幅広い年齢の方々、会場とオンラインで参加し、時には笑いながらも熱心に耳を傾けていました。

ひらく

第52号
令和5（2023）年
3月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575
✉ kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp

企画・編集/小平市男女共同参画推進実行委員会

安食世津子 高浜 志織 並木 菜里
岡 武左 竹田 雪美 宮川 和之
笹尾かをる 谷原 裕子
高橋 雅子 中村 幸世

令和5年度 小平市男女共同参画推進実行委員 募集！

男女共同参画を進めるため、広報誌『ひらく』の企画・編集、講演会の企画・運営などの活動をしていただける方を募集します。任期は令和6（2024）年3月末までです。

- 対象** ○市内在住・在勤・在学の方（経験は問いません）
○月1～2回の会議（平日または土曜日の昼間に開催）に年に半数以上参加できる方
- 募集期間** 令和5年4月5日（水）～4月28日（金）
- 応募方法** 下記の必要事項をご記入のうえ、郵便・FAX・メールで応募先へ。
①氏名（ふりがな） ②住所 ③生年月日 ④電話番号 ⑤メールアドレス
⑥応募動機（400字程度）
- 応募先** 小平市 地域振興部 市民協働・男女参画推進課 男女共同参画担当
詳細は市報4月5日号または小平市ホームページをご覧ください。

『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るための広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。